



小澤洋介、三戸素子、P ヤング友の会ニュース

2001年8月28日発行 No.30

夏も峠を越えつつあります。会員の皆さまは、どのようにお過ごしになっておられますでしょうか。洋介さん素子さんは、充電期間中。今後の計画を2人に聞いてみました。

「来年からイギリス館でベートーヴェンシリーズを始めます。また3年半かけたモーツァルトシリーズの次の段階として、来年5月にモーツァルト後期弦楽四重奏曲全10曲をまとめて演奏してみます。クライネス・コンツェルトハウスはこの10月にメキシコに招かれ、そのために西澤健一氏に新曲を作ってもらっているところです。サンクト・フローリアン三重奏団も新しい曲を勉強し(チャイコフスキー等々)、9月にロサンゼルスで合宿をします。12月には洋介さんとティムさん、来年4月には私とクリスティーナさんのリサイタルがあり、その練習のために何度もヨーロッパと日本を行き来すると思います。またこの10月に八ヶ岳で行われる『小澤洋介チェロの世界』でも演奏するバッハの無伴奏チェロ組曲は、洋介さんが以前からずっと取り組んでいたものですし、私も長年暖めてきたバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータ全6曲を自分でまとめはじめ、二人ともここ数年である程度まで作ってしまいたい、と考えています。」と素子さん。

洋介さんも「今年後半から来年、その先に向かって、各々の独奏、各々のピアノとのデュオ、サンクト・フローリアン三重奏団、弦楽四重奏、クライネス・コンツェルトハウスとひとつひとつ個別にイメージを強く持つことが、こういうオフの時期だからできます。」と語ってくれました。

今後がまた楽しみです。



7月のクライネス・コンツェルトハウス「ドイツ・ロマン派の系譜」は大勢の皆さまが来られ、盛況のうちに終わりました。その印象をつづったお手紙を会員の野崎譲さんがお寄せ下さいました。

友の会ニュースでは皆さまからのお手紙、感想、素朴な疑問等を常時お待ちしております！

2001年7月15日クライネス・コンツェルトハウス 東京文化会館を聴いて

友の会会員 野崎 譲

一曲目のR.シュトラウスの曲「弦楽四重奏曲イ長調作品2」。第1楽章は華やかな音色で始まり、15、16才で作曲されたとは思えないフレーズでした。続いての第2楽章は、とてもテンポの良い切れ味で、第三楽章では一転して暗く劇的な変化をし、第4楽章でこの曲をまとめあげる素晴らしい演奏でした。

二曲目のブラームスの「ホルン三重奏曲変ホ長調作品40」は第1楽章で途中から入ったホルンが印象的で、第2楽章でもとてもホルンの音がブラームスらしく、主旋律の美しいメロディアスなもので、心に残りました。第3楽章では、一変して物悲しい劇的な変化をし、亡きひとを偲ぶような感覚になりました。ブラームスの気持ちが伝わるようでした。一緒に来ていた母が言うには、ヴィスコンティの「ヴェニスに死す」の映画のシーンを思い浮かべたといいます。あの映画は原作がトーマス・マンのもので同じタイトルの短編小説ですが、モデルは娘を亡くしたマラーだとも何かで読みました。あの映画では、マラーの第5番の交響曲の第2楽章がくり返し流れてきます。私は昨年に祖母を、平成4年に叔母を亡くしたので、それを芸術として昇華したブラームスの気持ちがわかるような気がしました。第4楽章ではホルンとヴァイオリンとピアノの荘厳なる競演でしめくくられた感じです。

第2部のシューマンの「ピアノ五重奏曲変ホ長調作品44」は今まであまりシューマンに対するなじみのないものでした。何かもうひとつパンチのないイメージやモチーフが残らない作曲家でした。しかし、曲目解説と生の演奏で、クライネス・コンツェルトハウスの皆さまをとおして、シューマン自身の息づかいのようなものが感じられ、はげしさとはなやかにロマン派の印象が残りました。改めて、シューマンの素晴らしさ偉大さに気づかされ、彼の曲でも聴いてみようという気になりました。

いろいろ長々と書いてしまいましたが、19世紀末のいわゆるデカダンスといわれるような時代ですが、今回のプログラムを聴いて、デカダンスという言葉では、語れないヨーロッパ世紀末の模様を、音楽をとおして体験できた気がしています。

これからも知られざる珠玉の名曲の数々を是非、生演奏で聴かせていただきたく思いますので応援しております。

素子さんのタイ版「ウルルン滞在記」

7月15日のクライネス・コンツェルトハウスが終わった2日後、初めてタイに行ってきました。タイの少数民族の恵まれない子供たちに物資を運ぶボランティアを兼ねた、まったくの遊びの旅です。コンサートもなく、ヴァイオリンも持たない旅とはこんなに気楽なものなのか、と成田空港から実感しました。

バンコクから飛行機でミャンマー（ビルマ）とラオスの国境に近い、チェンライという北部の町に行きました。郵送しても届かないから、と一人20Kgの手荷物で運んだ衣料品などを持って翌日の晩、いよいよ子供たちのいるホームを訪問することになりました。貧困から麻薬栽培に関わって両親が刑務所の中だったり、エイズに罹っている両親を持つ中学生くらいの子供たち35人が学校に行かしてもらっているジッターメート寮というところで、キリスト教の教会が世話をしています。

車を降りて子供たちが待つ建物に向かっていくと、突然子供たちの歌声が聞こえてきました。遠方から物資をもって訪れた私達を歓迎してくれているのです。入っていくと子供たちがお揃いのシャツを着て民族楽器を手に、私達の方へ警戒の色を浮かべながら、おとなしく修道女風の女性に従って歌っていました。

部屋の真ん中には、何とヴァイオリンが1台用意されているのが目に入りました。どうも世話をしてくれた友人達が私に黙って、私がバイオリン弾きで皆のためにひいてくれるそうだ、とセッティングしていたらしいのです。大変な思いをして探してこられたらしいそのヴァイオリンは、だいたい8000円くらいのシロモノに見えました。

「ひえ～！！ ここでピアノもなし、知らない楽器で弾くなんて、そんなこと聞いてないよー。」と内心大いなる動揺を押さえつつ、抗議の目で友人を振り返ると、友人も予想を超えた大歓迎ぶりに、自分でも慌てているよう

でした。

わざわざ町から駆けつけて来られた女性理事長の立派な英語の挨拶や、アカ族出身の少女が手に長い金色の爪をはめてよろよろと民族舞踊を踊ってくれたり、子供たちのタイの歌としか聞こえない英語のゴスペル風賛美歌など、心をこめて歓待してくれました。こんなにしていたらその期待に応えないわけにはいきません。「私は日本から来たのであります。皆さんの素敵な歌に大変感動したのであります。」と何とかスピーチして、はて何をひこうかと必死で考えました。まず日本の歌「椰子の実」をひいたところでベートーヴェンのメヌエット、スピーディーなチャルダシュと20分間くらい、ヴァイオリンと少数民族の子供たちとの接点を模索しつつパフォーマンスしたのでした。（さいわい楽器には弦が4本ちゃんと張ってありました。）

子供たち以下、見物に来ていた近所の人々、理事長先生ほか皆とても喜んでくれ、それから皆で写真を撮ったり、素朴なバナナの皮でつつんで蒸したお菓子や、真緑や真っ赤なファンタのボトルがまわされ、まるでクリスマスのようなようでした。子供たちが全員でタイ語の名前を寄せ書きしてお礼のカードを作ってくれたり、心暖まるひとときでした。

思わぬ音楽会にはじめは戸惑いましたが、こんな一晩が過ごせたのも、心をこめて準備した教会の方々やお菓子を提供してくれた近隣の人々や、大事な大事なヴァイオリンを貸してくれた人また世話をしてくれた友人達等、皆の善意が一つ欠けてもありえなかったのだ、と人間の力を再認識しますね、貴重な体験となりました。

その後はタイ料理のクッキングスクールに行きグリーンカレーの作り方を習ったり、交通の不便なスコタイ遺跡にほうほうの体で行ってきたり、充実の7日間を過ごして無事日本へ帰り着きました。（素子さん談）

今後の主なコンサートとスケジュール

10月6日(土) 小澤洋介チェロの世界 in 八ヶ岳

バッハ無伴奏チェロの組曲 シリーズ その2

- ・黛敏郎：BUNRAKU
- ・バッハ：無伴奏チェロ組曲
第5番 八短調、第4番 変ホ長調

会場：谷櫻酒造 蔵元ホール(八ヶ岳山麓 大泉村)

問：友の会八ヶ岳支部 三井千恵子 TEL.0551-38-0354

10月25日、26日 クライネス・コンツェルトハウス

メキシコ演奏旅行

メキシコ・シナロワ州 音楽祭参加
・西澤健一：七重奏曲 ほか

11月8日～11日 サント・フローリアン三重奏団

骨髄バンク支援キャンペーンコンサート

8日埼玉、9日千葉、10日東京、11日福島

- ・モーツァルト：ピアノ三重奏曲「ディヴェルティメント」
- ・西澤健一：ピアノ三重奏曲
- ・チャイコフスキー：ピアノ三重奏曲 イ短調
「偉大な芸術家の思い出に」

問：全国骨髄バンク推進連絡協議会 TEL.03-3356-8217

12月7日(金) 小澤洋介チェロリサイタル

小澤洋介、ティム・レーヴェンスクロフト デュオリサイタル
シューマン & ブラームス

- ・ブラームス：チェロソナタ第1番
- ・シューマン：幻想小品集
- ・シューマン：5つの民謡風の小品集
- ・ブラームス：チェロソナタ第2番

東京オペラシティ リサイタルホール 7pm 開演 ￥5,000

お問合せ：ハラヤミュージックエンタープライズ TEL.03-3587-0218

1月27日(日) 東京文化会館室内楽シリーズ

クライネス・コンツェルトハウス Op.12

- ・ハイドン：弦楽四重奏曲
「十字架上のキリストの七つの言葉」

出演：ヴァイオリン：三戸素子 / 山田耕司 / ヴィオラ：二宮隆行 / チェロ：小澤洋介
朗読：蜷川有紀 出演予定！！

東京文化会館 小ホール 2pm 開演 ￥4,000

お問合せ：ハラヤミュージックエンタープライズ TEL.03-3587-0218

クライネス・コンツェルトハウス事務局 FAX.042-945-6329